

楯無鎧と新羅三郎義光

しんらさぶろうよしみつ

「第二十八回国民文化祭・富士の国やまなし国文祭」は、今年一月十二日のオープニングイベントで幕を開け、甲州市でも同日の「田野の十二神楽」や同十四日の「藤木道祖神祭り太鼓乗り」、同二十日の「民俗芸能の祭典」などを開催、県内外の多くの方々にご参加いただいたところでした。

十月になると、二十五日（金）から二十七日（日）の三日間、「信玄公ゆかりの文化財巡り」と題して、市内に三件しかない国宝の公開や、国宝・重要文化財を巡るツアーなどを実施する予定です。

国宝は、県内に五件しかありません。勝沼町勝沼の大善寺本堂（建造物）、向嶽寺の絹本著色達磨図（けんぼんちやくしよくだるまず）（絵画）、菅田天神社の小桜韋威鎧（こざくらがわおどしよろい）（工芸品・通称「楯無鎧」）で、残る二件は山梨市・清白寺仏殿と、身延町・久遠寺の絹本著色夏景山水図（けんぼんちやくしよくかけいさんすいずです）。

「信玄公ゆかりの文化財巡り」は、普段は非公開のものもある市内の国宝を全てみられるまたとない機会です。清白寺と山梨県立博物館（笛吹市）まで足を伸ばせば、残る二件もみることが出来ます。今号は、菅田天神社の楯無鎧について、いろいろと記します。

菅田天神社について

塩山上於曾に鎮座し、祭神は本殿に素戔鳴尊および五男三女神、相殿に菅原道真を祭祀します。社記によると、承和九年（八四二）国司藤原伊勢雄が勅を奉じ、甲斐小目飯高浜成に命じて創立したと伝えられています。寛弘元年（一〇〇四）菅原道真を相殿で祭り、これ以来菅田天神社と称したといわれています。

新羅三郎義光以来甲斐源氏の鎮守とされ、社の位置が甲斐府中（甲府）の鬼門に当たるので、武田家は重宝楯無鎧をこの宮に預け、於曾氏にその保管をさせ、大事あるごとに出納を命じたといわれています。またこの楯無鎧については、承久年間武田信光が社殿を造営し、陣中の守護たる神器楯無鎧を本社殿に納め置き、同族である於曾氏に守護させたともいわれています。楯無鎧は「小桜韋威鎧」として、国宝に指定されています。

国宝「楯無鎧」

楯無鎧は「御旗楯無」と呼ばれる武田氏の家宝として



楯無鎧の国宝名「小桜韋威鎧」とは、小桜の文様が入った小札（こざね）を韋（なめしがわ）で威して（つづつて）いることから付けられたものです。

て、また、家督相続の証として、御旗（二日の丸の御旗）雲峰寺蔵」とともに大きな意味を持っています。甲斐源氏の祖・新羅三郎義光以来、武田氏の重宝として相伝され、武田信玄の時代に、鬼門鎮護のため甲府の北東の方角にあたる上於曾村の菅田天神社に納められたといわれています。

武田家滅亡の折、勝頼の家臣である田辺左衛門尉が向嶽寺の大杉の下に埋めましたが、徳川家康が見つけ出し、再び菅田天神社に納めました。

その後江戸時代に盗難に遭い大破しましたが、寛政十年（一七九八）に江戸で修復され、さらに文政十年（一八二七）にも補修されました。

楯無鎧と「新羅宮」

楯無鎧は境内にある保管庫内に安置されています。この保管庫の前には「新羅宮らぎのみや」と記された石柱が立てられています。

新羅宮とは、甲斐源氏の祖である新羅三郎義光から、この楯無鎧が代々相伝されてきたということから付けられた名称で、鎧の神格性を示しています。

新羅三郎義光は源頼義の三男で、滋賀県大津の三井寺（園城寺）北院にある新羅善神堂で元服したため、新羅三郎と呼ばれています。



楯無鎧が安置されている保管庫「新羅宮」と今澤宮司。

新羅三郎義光伝説

源頼義の長男・義家は、京都の岩清水八幡宮で元服したため「八幡太郎」、次男・義綱は京都の上賀茂神社で元服したため「賀茂次郎」と呼ばれています。

市内には他にも、新羅三郎義光に関する伝説が残されています。

塩山三日市場に鎮座する白鬚神社は、社殿が西を向いている珍しい神社です。神社の由緒について、『社記』には次のようにあります。

人皇七十代後冷泉天皇の御宇天喜二年（一〇五四）奥州の夷賦安倍頼時、其の子貞任謀反の時、將軍源頼義公、其の子義家朝臣、義光朝臣と共に当国御通行の時、暗夜に教導の神ありて鈴を鳴らして導き給ふ。明旦に其所の松に白水干掛かれり。康平五年（一〇六二）この処に義光朝臣、当社祀り給ふと伝う。

「白鬚」は「新羅」が転訛したともいわれており、社殿が西を向くのも新羅の国（朝鮮）があるからと説明されています。

甲州市は武田氏の史跡が特に集まっている地域で、武田の始祖に対する啓蒙も盛んだったのでしよう。



新羅宮で鎧の説明をする宮司。

新羅三郎義光が元服をした新羅善神堂は、三井寺（滋賀県大津市）に鎮座します。三井寺は、正式には「長等山園城寺（おんじょうじ）」といい、天台寺門宗の総本山です。平安時代、第五代天台座主・智証大師円珍和尚の卓越した個性によって天台別院として中興され、以来一千百余年にわたってその教法を今日に伝えてきました。

三井寺の北側、比叡山の山頂には同じく天台別院の比叡山延暦寺があります。比叡山から琵琶湖へ下っていくと坂本という地区にですが、ここは延暦寺の門前町として発達したところです。

大津市坂本（里坊群・門前町）

所在地	滋賀県大津市坂本
種別	里坊群・門前町
条例制定年月日	平成九年四月一八日
選定年月日	平成九年一〇月三一日
地区面積	約二八・七ヘクタール
保存物件数	建築物 一一〇件 工作物 一一八件

大津市坂本は、延暦寺および日吉神社の門前町として発達してきました。参道の両側には比叡山の隠居した僧侶が住む里坊が並びます。安土桃山時代には、明智光秀により坂本城が築城されましたが、本能寺の変や続く山崎の戦い後に廃城になりました。坂本の町も、織田信長の比叡山焼き討ちの際に多くが焼失しましたが、徳川家康の側近である天台宗の僧・慈眼（じげん）大師（天海僧正）が延暦寺の復興に関わり、

坂本の町づくりにも着手したと言われています。坂本の町を歩くと、石垣が多いことに気づきます。これは穴太衆（あのをしゅう）積みと呼ばれるもので、加工しない自然のままの石を積み上げています。穴太衆は坂本の近くにある穴太地区の石工の集団で、安土城や彦根城、名古屋城など各地の城の石垣を手掛けました。甲府城の石垣にも取り入れられています。

坂本の里坊や古い民家の石塀にも穴太衆積みが多くみられ、町並みの美しさを引き立っています。特に滋賀院門跡の御成門の両側に続く石垣は、坂本一と呼ばれています。



坂本の街中に連なる穴太衆積みの石垣。



坂本の町を上っていくと日吉神社にあたります。



いたるところに穴太衆積みの石垣があります。



国指定史跡の旧竹林院庭園。